

## 指定管理者制度活用事業 評価シート

### 1. 基本事項

施設名称	れいんぼう川崎	評価対象年度	平成29年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 ・代表者名 長谷川 忠司 ・住所 川崎市高津区久地3-13-1	評価者	障害計画課長
指定期間	平成28年4月1日～平成33年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害計画課

### 2. 事業実績

利用実績	生活介護・施設入所（定員60名） 契約者数60名（平成30年3月31日現在） 短期入所（定員10名） 延利用者数 3,048名 自立訓練（定員20名） 契約者 34名（機能訓練4名、生活訓練30名） 在宅リハ訪問件数 464名、診療延件数1,540件																										
収支実績	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">収入</th> <th style="text-align: left;">支出</th> <th style="text-align: right;">収支差額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福祉事業活動 681,703千円</td> <td>福祉事業活動 676,998千円</td> <td style="text-align: right;">-1834千円</td> </tr> <tr> <td>給付費 305,348千円</td> <td>人件費 445,918千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>川崎市独自扶助 164,243千円</td> <td>事務費 66,920千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定管理委託料 122,911千円</td> <td>事業費 63,170千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>拠点区分間繰入金 55,782千円</td> <td>拠点区分間繰入金 100,990千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他 33,419千円</td> <td>施設整備等 6,539千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計 681,703千円</td> <td>合計 683,537千円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※端数処理のため合計が一致しないことがあります。</p>	収入	支出	収支差額	福祉事業活動 681,703千円	福祉事業活動 676,998千円	-1834千円	給付費 305,348千円	人件費 445,918千円		川崎市独自扶助 164,243千円	事務費 66,920千円		指定管理委託料 122,911千円	事業費 63,170千円		拠点区分間繰入金 55,782千円	拠点区分間繰入金 100,990千円		その他 33,419千円	施設整備等 6,539千円		合計 681,703千円	合計 683,537千円			
収入	支出	収支差額																									
福祉事業活動 681,703千円	福祉事業活動 676,998千円	-1834千円																									
給付費 305,348千円	人件費 445,918千円																										
川崎市独自扶助 164,243千円	事務費 66,920千円																										
指定管理委託料 122,911千円	事業費 63,170千円																										
拠点区分間繰入金 55,782千円	拠点区分間繰入金 100,990千円																										
その他 33,419千円	施設整備等 6,539千円																										
合計 681,703千円	合計 683,537千円																										
サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数年にわたり調整・支援を続けていた利用者について、特養への移行を2名、車椅子利用者向け市営住宅における単身生活を1名が実現した。他施設や単身生活への移行に向けた支援を通じて、多職種チームでの協働でそれぞれの役割への理解が進み、支援員としてのマネジメント力向上に資することができた。</li> <li>・地域における障害者スポーツの体験を通じて、施設利用者が地域に主体的に関わる機会を設けるとともに、地域における障害者理解の促進にも貢献している。</li> </ul>																										

### 3. 評価（評価段階：5～1,標準：3,加点割合：5→100%,4→80%,3→60%,2→40%,1→0%）

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	4	8
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	5	10
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
<p>（評価の理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度より調整を進めていた特養への移行について、2名の利用者が移行を果たした。また、複数年にわたり地域移行支援を続けてきた利用者1名については、車椅子利用者向け市営住宅の当選を果たし、多職種協働で地域での生活を支える支援を構築し、地域での単身生活を実現した。これらの支援を通じて、多職種チームでの協働でそれぞれの役割への理解が進み、支援員としてのマネジメント力向上に資することができた。</li> <li>・ケース検討会等による支援技術向上や人材の育成、データ管理による支援経過の共有、ウェルフェアイノベーション事業への専門的な助言等を行い、地域リハビリテーションの促進に向けて貢献している。</li> <li>・社会福祉協議会や学校の行事における障害者スポーツ体験を通じて、施設利用者が地域に関わる機会を設けるとともに、障害者だけでなく子どもから高齢者まで楽しめるスポーツとしてポッチャの普及に努め、リハスポーツを介した地域づくりに取り組んでいる。</li> </ul>					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	4	4
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	2	2
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
	適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			
<p>（評価の理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支出については、法人の事務決裁規程や経理規程に基づき、ほぼ予算どおりの予算内で執行を行った。</li> <li>・収入については、施設入所支援・生活介護事業において、身体状況の重度化により常時医療的ケアの必要性が高くなった方等の退所者が8名となり、入所者9名を受け入れた。利用者の意向を重視して退所・入所の対応を丁寧に行った結果、大幅な収入減となった。</li> <li>・法人の経理規程に則り適正に金銭管理を行った。また、法人内で発生した不正経理案件を受けて、法人による「経理処理の適正な実施について」の指示に従い、点検作業を行った。</li> </ul>					

サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	5	5
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
	利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	4	4
		利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅リハビリテーションにおいては、本人の意思を丁寧に確認しながら、ソーシャルワーカーが中心となって今後の方向性の確認や関係機関の役割の整理などマネジメントを行い、地域生活の再構築を目標に住環境の整備や身体の動作指導等を実施している。終了後は、地域のケアチームに支援を引き継ぐためケアカンファレンスへ参加する等、複数の機関が共同して利用者の地域生活を支える仕組みを構築している。</li> <li>地域で暮らす障害当事者と家族のネットワークを構築するきっかけづくりとして、平成29年度は利用終了者の「交流会」を開催した。</li> <li>利用者との日々の会話等から意見・要望を聞き取ることを基本とし、意見箱も設置している。利用者満足度調査を毎年行い、その結果と改善の取組について事業説明会で報告している。また、総合相談事業については、サービス向上に役立てるための質問や実施方法等について検討を行っているところである。</li> </ul>					
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	5	5
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	3	3
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	4	4	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員の資質向上については、研修委員会の計画に基づき内部・外部の研修を積極的に受講している。また、各種学会や研究会での発表に積極的に取組み、専門職としての自己研鑽だけでなく、福祉業界全体の質の向上に資している。</li> <li>災害に対する取組として、消防署立会いのもと夜間の火災を想定した訓練を行い、連携を確認したほか地震を想定した訓練も実施している。</li> <li>事故については、転倒や車いすからの滑落が多いため、危険予知と注意事項を支援手順に盛り込んだケアマニュアルに基づく個別性の高い支援に取り組んでいるほか、居室の環境整備や車いすの転倒防止バーの取り付け等により未然防止に努めている。</li> <li>年4回のノーリフト(抱え上げない介助)週間を実施するなど、一昨年度導入した床走行リフトの使用定着に向けた取組を行い、腰痛者減少など効果が出ている。一方、導入した福祉機器の故障の増加、時間がかかることによる日課の見直しなど課題もあがってきており、今後はこれらの課題解決にも並行して取り組んでいく。</li> </ul>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設・設備の定期保守点検等、外部委託している業務は予定どおりに実施され、不具合の報告を受けた場合も迅速に対応している。また開設から20年以上経過する中で、設備機器の不具合が頻発するが、その都度川崎市と連絡を行い、迅速に対応している。</li> </ul>					

#### 4. 総合評価

評価点合計	74	評価ランク	B
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A~E,標準: C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→40点以上50点未満,E→50点未満  
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

#### 5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

- ・在宅リハビリテーション事業と自立訓練事業を1つの事業所で行い、多様な専門職がいることからチームアプローチをしやすいという強みを活用し、住み慣れた地域でその人らしく生活できることを目標に、利用者一人ひとりのライフスタイルに応じた質の高い支援を行っている。
- ・支援の中で獲得した知識・技術を講師や学会発表、論文執筆の形で関係者に還元し、れいんぼう内外で専門職の育成支援に積極的に取組んでおり、当事者や家族を地域全体で支える仕組みの構築に寄与している。

#### 6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

--